

普及活動情勢報告（令和2年12月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

津野山ユズ産地の維持のために ～J A青壮年部員がユズ収穫作業受託を試行～



青壮年部員による収穫作業

津野山地域では、ユズ生産者の高齢化により収穫等の作業が行えず放棄されているほ場が増えてきています。

そこで、当課はJ Aと連携し、収穫作業の受委託の仕組みづくりに取り組むなかで、作業受託時の単価試算や作業受託候補先への働きかけを行いました。その結果、今年度は試行的にJ A青壮年部が受託し、11月10日から26日にかけて、部員2名が2圃場で収穫作業を実施しました。作業時には、当課が圃場の作業性の確認や作業時間等を調査し、仕組みの検証をしました。

当課は、今後もJ A青壮年部等地域の組織等と連携したユズ圃場の労働力補完の仕組みづくりに向けて支援を行っていきます。

生育初期の樹作りに全集中で取り組もう！ ～米ナス生育調査結果報告会～



報告会の様子

11月30日、J A高知県高西地区津野山営農経済センターで米ナス生育調査結果報告会を開催し、生産者8人が出席しました。

当課からは、令和2年5月から11月にかけて行った生育調査の結果、生育初期に茎周を太く樹作りすることが収量向上につながることや、そこから見えてきた今後の栽培管理について篤農家の事例を挙げながら情報提供を行いました。生産者からは「今後は生育初期の管理に注意しながら栽培したい」などの声が聞かれました。

当課は今後も生育調査を通じて、収量増につながる理想的な米ナスの樹姿について分析し情報提供をしていきます。

できることからGAPに取り組もう！ ～令和3園芸年度ニラ部会出荷始め総会～



GAPについて情報提供を行う普及指導員（右奥）

12月4日、大間集出荷場会議室でJ A土佐くろしおニラ部会出荷始め総会が開催され、生産者17人が出席しました。

当課からは、GAPおよび電照による生育促進効果についての情報提供を行いました。GAPについては生産者の生命や健康に関わる労働安全の項目を重点に説明を行いました。GAPへの意識は個人差があることから、さらに取り組みを強化する必要があります。

当課は今後もJ A営農指導員と個別巡回等でGAPの啓発を継続し、生産者が主体的にGAPに取り組んでいけるよう支援していきます。

津野山地域の農畜林業を考えるキッカケに ～津野山地域の関係首長等での意見交換会への準備～

津野山地域では、園芸単独で経営する農家もありますが、農畜林業の複合経営をしている農家が多いです。

そこで、当課から各機関に働きかけ、津野山地域の農畜林業に関わる関係部署が、今後より連携した活動を展開するために、首長等の意見交換の場を創設することとなりました。

現在、事務局打合せ会として、関係部署の担当者間で、意見交換のテーマなど協議を重ねており、12月18日には第2回事務局打合会を開催し11名が参加、内容等を決定しました。

当課としては、この動きをキッカケとして、津野山地域の園芸、そして関係機関が連携した農畜林業振興を支援していきます。

[illegible]

津野山地域農畜林業の全体像